



インフルエンザ流行 注意報レベルに！

2月に入り新型コロナと入れ替わるようにインフルエンザが流行し始めました。今治市では2月第4週(2月19日～)以降、**定点医療機関の1週間当たりの報告数が10人を超え、注意報レベルに拡大してきました**。発症年齢は未就学児が多く、タイプはほぼA香港型です。成人の報告例が非常に少ないのも今年の特徴です。3年ぶりの流行ですが、新型コロナ発生以前の流行とは違い、年齢的な広がりや流行拡大の勢いが弱い印象があります。原因として、マスク手洗いなどの感染対策が徹底されていることに加えて、新型コロナワクチン接種が進み、多くの人々がコロナに感染したことで、新型コロナに免疫のある人が増えてきたことも、なんらかの関連があるのではないかと考えます。

インフルエンザは、学校保健安全法上、流行の拡大を防ぐため、出席停止期間が決まっています。**保育所の出席停止期間は、『発症した後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過するまで』**となっています。また、インフルエンザは発熱してから8～12時間経過しないと正確な診断ができません。発症から一定時間たってから病院受診をするようお願いいたします。

治療薬は内服薬、吸入薬、注射剤とバリエーションが豊富です。ただしお薬は発熱期間を短縮させることができるというもので、本人の自然治癒力にまかせて治るのを待っても差し支えありません。

マスク着用は個人の判断が基本！

厚労省は、3月13日から、コロナの感染対策としてマスクは屋内では原則着用、屋外では原則不要としている取り扱いをやめ、マスク着用は個人の判断にゆだねることを基本とするとして以下の見解を示しました。

- *屋内では他の人と距離がとれない場合や会話を行う場合はマスク着用を推奨。
- *屋外では他の人と距離がとれず会話をする場合以外はマスク着用は必要なし。
- *2歳未満の子どもにはマスクは推奨しない。2歳以上の就学前の子どももマスク着用を一律には推奨しない。

マスクは、自分を守るというよりも、自分が周りの人に感染を広げないためにつけるという原則を忘れないようにしましょう。



2月の感染症症情報

ノロウイルスによる感染性胃腸炎が流行しましたが、2月下旬から下火になりました。新型コロナは2月前後半から少なくなり、代わってインフルエンザが増えてきました。

RSV感染症、ヒトメタニューモウイルス感染症も持続的な発生があります。発熱が続く咳がひどくなる時は、これらの感染症を疑う必要があります。



2月の利用状況

2月の利用延べ人数は94人で、1日の平均利用人数は5.0人でした。年齢別では2歳児が25人で最も多く、次いで1歳児、3歳児の20人の順でした。疾患別では、RSV感染症が23人で最も多く、次いで感染性胃腸炎22人、A型インフルエンザ14人の順でした。RSV感染症は経過が長いため、病児一人が利用する日も長くなります。その結果として利用延べ人数が他の疾患に比べて多くなるものと思われます。

2月も1月同様、感染症の種類が多かったため、部屋割りに苦労しました。それぞれの感染症ごとにお部屋を分けてお預かりすると、預かれるお子さんの人数が限られます。できるだけ多くのお子さんをお預かりするには、過去の病気の罹患歴が大変重要になりますので、ご協力よろしくをお願いします。